

研修名 乳児保育・教育

令和元年10月3日(木) 13:30~16:00

講演 「ていねいなまなざしでみる乳児」

講師 非営利団体コドモノミカタ代表

乳幼児教育実践研究科

井桁 容子 氏

## 1) 考える力・意欲・関わる力が育つ保育

かなちゃんの0歳児から3歳児までの成長記録より～

※映像を見ながらの講演

①おやつ(関わりの育ち) (かなちゃん10カ月)

・食事は子どもと向き合わず横に座った方がいい。保育者が前にきて食べさせると、この人の期待に応えなくてはいけないと思ってしまう。与えられる食事ではなく友達をみて楽しみながら食べることにより育ち合う。

②トラブル(だめ) (2歳7カ月)

・ままごと遊びで友達が持っている玩具を使いたくて取り合いになる…手が出る前に保育士が、双方の言葉を代わりに伝える。友達が使っているから違う玩具を提示したり、その子に待っている子の気持ちを伝えてみた。その後、友達を迎えにく姿がみられた。

③噛みつき

・友達のかかわりの中で、噛みつきが見られるが双方の思いを言葉にしてあげることによって納得する。先生が僕の気持ちを分かってくれて友達に伝えてくれる。



子どもの気持ちを分かろうとし、子ども同士を繋げる保育士に！これは経験年数ではない。

④トラブル

・もめ事が起きた時は、それぞれの思いを言葉にする。子どもは、いつも、自分の気持ちに共感してくれる先生がいることによって、保育者の言葉に耳を傾けることができる。相手にも思いがあることに気づき、話を聞くことということをするようになる。

思ってもいないことを言わされると、「世の中はそんな気持ちがなくてもとりあえず謝れば何でも済む」と教えていることと同じ。

⑤取り合い (かなちゃん10カ月)

・子どもが絵本のページを自分でめくりながら見ている。保育士は“読んであげる”のではなく読むお手伝いをするだけ。ゆうじくんが(11ヶ月)はたらくくるまの布絵本を見ている。同じ絵本を見たくて、相手の様子をうかがいながら、絵本を差し出すかなちゃん。「かなちゃんもみたいよね。」と思いを満たしてもらうことにより安心する。

⑥体育遊び(くるりんぼん)

- ・友達の様子をみていて、困っているところを助けようとしている。
- ・ちょうどいい援助ができるのは、日常的に保育者が行っているからである。

## 2) 幸せについて

①「幸せ」について研究している前野隆司教授(慶応義塾大学院)によると…

- ・地位材でもたらされた幸せは長続きしない。

→1位になることが幸せなのか。学歴があることが幸せなのか。非地位材は幸せが長続きする。

- ・利己的な人よりも利他的な人の方が幸せ
- ・多様な人と付き合っている人の方が、自分と同じような人と付き合うよりも幸せ  
→友達がたくさんいるが幸せ？友達の質が違うほうが楽しい？



幸せな状態の人は、不幸な人よりも創造性、生産性が高い。

幸せな人は性格がいい。

幸せな人は不幸な人よりも7～10年長生きする。

②子どもも大人も幸せになるには・・・

- ・比べられずに自分のありのままをうけとめられること。
- ・みんな違っていることを認められること。



人間らしさやその人らしさが表れる。

- ・心の質感を大切にすること。
- ・心の質を育てるのが保育士である
  - ・みんなと同じことができるようにする保育は時代遅れ、一人一人違っていい一つのものしか価値がないという時代なのである。
  - ・特徴のあるその人らしさがでる時代になってきている。

### 3) 私たちが願う人間像

頭からシャワーをかぶっている子どもの写真。(写真④)

→頭だけ濡らすつもりが、全身にかかってしまった。この時、失敗したことから学ぶことはある。感じる事から、加減理性が育つ。

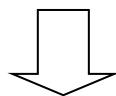
折れない心を持つこと。逆境から立ち直る力が育つには、自分を応援する気持ちや内側から湧き上がる意欲が大事。

- ・内的統制型…人生や身に起こる出来事をコントロールする力が自分にあると信じている。
- ・**外的統制型**…人生・環境・運命によってコントロールされているから自分では変えにくいと信じている。

この傾向が強いと不安、うつ症状がしやすい。無力感がどんどん低年齢化してきている。

・感情は3歳までに育つ。人間関係ホルモンのオキシトシンは1歳。もし、子どもが失敗したら日本では、「だから言ったでしょ！」という言い方をしてしまうが、海外では「good job」いい経験になったねと言う。心配を信頼に変えるのである。

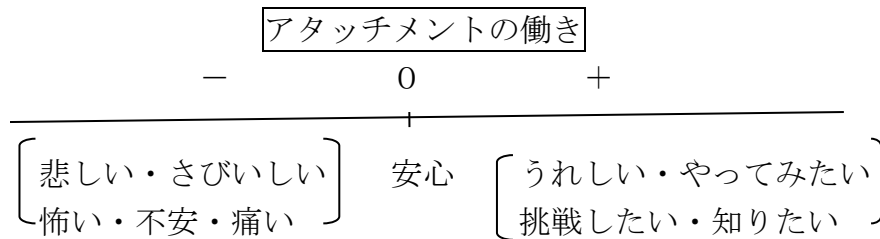
・失敗しない子どもになってもらうのではなく、上手くいかない時や失敗した時にこそ考えたり・工夫したり・他者に助けを求めることができる子どもに育ててもらう。



これからの保育はみんなと同じことができるのではなく  
様々な分野のヒーローを育てる事が大事！

#### 4) アタッチメントの保障

・特定の人に対する心理的な結びつきにより、いつでもつながっている安心感と確信を持ち、自律的な個人の発達が促され、「基本的信頼感」が育つ。



- ・担当制にして「子どもにとってたった一人の人」でなくてもいい。色々な先生にわかってもらうことが大事である。
- ・「見守る保育」や「ていねいな保育」は必ずしも1対1ではない。一人一人が満たされる保育をすることが大事である。



子どもの気持ちに合わせたり、気づいたりできるか。子どもと一緒に心を動かせる人になってあげる。決まった事をこなしていく子どもにしない。



#### 一人の人間として尊ぶ

・ダメ！やめなさい！という否定的な言葉は少ない方がいい。身近にいる大人のかける言葉で子どもはわかる。肯定的な言葉をたくさんかけてあげる。共感された言葉をたくさんため込む子どもの方が自分の気持ち、相手の気持ちを豊かに表現できる。

- ・共感されて育った子どもは、他者への共感力に優れコミュニケーション力が豊かに育つ。
- ・一流の仕事をしていても、長所や短所がある。優れた人が良い仕事をしているのではない。
- ・基本的信頼感が育っていないと子どもの主体性は育たない。親も保育者も同じ。

〈子どもと大人がともに育ち合う保育のポイント〉

- ・ていねいなまなざしでいいところをみる
  - ・他と比べない、急がない
  - ・失敗を恐れない
  - ・違っていることを大切にする
- } 乳児期（特に0歳児）に関わる  
保育者がキーマン

#### 5) 最後に

育て急がず、頑張りすぎず、ありのままに、ありのままを、大切にする、子どもにとってうれしい大人に！

〈所感〉

今回乳児保育のありかたについて、より一層深く考え直す研修であった。近年、困った子どもが多いという事が言われているが、実はそうではなく私たち大人がまず変わらなければいけないのだということを聞き、昔と同じ気持ちで保育していないだろうかと振り返ることが出来た。決めつけや思い込みで子どもを見てはいけない。子どもが主体的に行動できるのは、乳児のときからの積み重ねであること。子どもが自分でしたいという気持ちを持ち心を柔らかくほぐして丁寧に子どもと関わるよう日々の保育を大切にしていきたい。

（記録 精華町立ほうその保育所 藤田智子）